

令和5年度第1回本庄市環境審議会 意見対応について

委員名	内容	対応方針
浅見 龍一	環境推進課は年間の予算で、例えば公用車のEV化、はにぼん号のEV化等、脱炭素に向けての予算編成をしているのか。	現時点では予算確保に関する詳細な記載は困難であり、第8章において「財源確保」の項目を新たに設定しました。
酒井 勝弘	市の予算だけでなく国の脱炭素先行事業なども活用することを検討してほしい。	
筑紫 善一郎	どの程度の金額でゼロカーボンにするかという金額がまったくわからない。事業者に負担してもらえばかりでは、ゼロカーボンの達成は不可能である。	
浅見 龍一	「自立分散電源の推進」について、家庭や事業所における再生可能エネルギー及び蓄電池の災害時の活用促進のところで、主な実施主体として市には●が付いていない。「市民の省エネルギー活動の促進」も市民のところに●が付いていない。	これらの取組の普及啓発活動は市が行うことから、すべての取組について、市に●を追記しました。
酒井 勝弘	「省エネ」という言葉は出てくるが、「エネルギー創生」という言葉がみられない。「導入」という言葉で読み替えていると思うが、もう少し踏み込んで「エネルギー創生」というキーワードが入って然るべきである。	重点的な取組（1）の取組の意図の文章を修正し、「創エネルギー」を明記しました。
	現状趨勢ケースでの温室効果ガス排出量36%削減の中には、電源構成には原子力発電も含むのか、その根拠を確認したい。	表6-1の下に※で経済産業省の「2030年度におけるエネルギー需給の見通し」という資料を記載しています。こちらに2030年度の電源構成の記載があるため、ご確認ください。具体的な計算根拠は、資料編に掲載予定です。
片桐 正富	太陽光発電を普及させるのはいいが、処分に対してどのような展望を持っているかを聞きたい。太陽光発電の普及を将来ビジョンに描くのであれば、廃棄まで含めた形でのビジョンを考えたほうが、設置も進むと考える。	太陽光発電設備の適切な廃棄は、今後の検討課題と考えています。太陽光発電設備の廃棄については「暮らし」の将来ビジョンに追記したほか、基本方針2に取組を追加しました。
山口 豊	「再生可能エネルギーの導入」について、「山林等市内の自然環境や生活環境とのバランス」とあるが、生態系保全などを詳しく書いたほうがよい。	本庄市の地球温暖化に関する課題（6）に、太陽光発電設備の導入においては、動植物の生息・生育環境の改変が懸念される旨を追記しました。

<p>山口 豊</p>	<p>資料4の取組の方向性には「市内は山林をはじめ……各家庭や事業所への太陽光発電設備設置も促進します。」とある。安中市では、「太陽光発電は効率性や維持管理の面から建物の屋上よりも、広い面積で大規模な野立式により事業化される傾向が強いため、本市としては自然災害の危険性が高い地域への無秩序な太陽光発電設備の設置抑制を図り、良好な生活環境の保全と安全・安心な生活の確保に努めます。」というように、詳しく説明されている。このように、詳しく説明する考えはあるか。</p>	<p>重点的な取組（1）の取組の方向性の文章を、ゼロカーボン宣言の趣旨である本市の緑豊かな自然環境等を次世代に引き継ぐという目的を踏まえ、家庭や事業所等への太陽光発電設備設置を促進する旨に修正しました。</p>
-------------	--	---